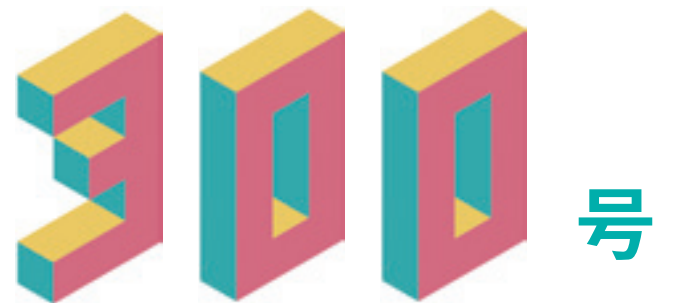


皆さんと共に歩んで

広報はちまんたい



号

「広報はちまんたい」は今月で300号を迎えました。これまで八幡平市の歴史を刻んできた本紙も、時代の流れに合わせて少しずつ変化してきました。
今回は発刊300号を記念し、過去の紙面をめくりながら、市の歩みを振り返ります。

皆さんに支えられ300号

平成17年9月1日、西根町・松尾村・安代町が合併し、人口3万1766人(同年8月末)、総面積862平方キロの八幡平市が誕生しました。それから14年9カ月が経過。新市と共に誕生した「広報はちまんたい」が、今月で創刊から300号を迎えました。

300号に至るには、市民の皆さんの支えがあってこそです。「〇〇なすごい人がいるよ」「〇〇なイベントを開催するよ」と情報



八幡平市の記念すべき第一歩を刻んだ創刊号

提供してくれたり「忙しい」「恥ずかしい」と言いながらも取材に応じてくれたりと、皆さんの協力がなければ紙面を作ることができません。また皆さんの手に届くまでには、各地区で配布してくれる行政連絡員や班長の協力が必要不可欠です。改めて市民の皆さんの協力に感謝します。

市民と行政の協働のために

「Public Relations
Ⅱ大衆・公衆との関係」の日本語訳

「広報はちまんたい」で振り返る 市と広報の歩み

■平成17(2005)年【No.1～7】
9月 八幡平市誕生、創刊号発行／10月 田村正彦氏が初代市長に就任※写真①

■平成18(2006)年【No.8～30】
11月 市民憲章と市の花・鳥・木を制定、宮古市と姉妹都市協定締結

■平成19(2007)年【No.31～53】
1月 名護市との友好都市協定締結／9月 集中豪雨災害大きな爪痕残す※写真②

■平成20(2008)年【No.54～75】
■平成21(2009)年【No.76～96】
7月 岩手山パノラマラインが開通

■平成22(2010)年【No.97～118】
3月 渋川小閉校／11月 八幡平市民歌制定

■平成23(2011)年【No.119～141】
3月 東日本大震災※写真③／8月 北東北インターハイレスリング競技開催※写真④

■平成24(2012)年【No.142～164】
12月 一般廃棄物最終処分場が完成

■平成25(2013)年【No.165～187】
3月 東大更小と田山中が閉校

■平成26(2014)年【No.188～210】
11月 市役所新庁舎開庁※写真⑤／12月 西根バイパス全線開通

■平成27(2015)年【No.211～234】
■平成28(2016)年【No.235～258】
2月 希望郷いわて国体スキー競技会開催／10月 希望郷いわて国体5競技開催※写真⑥

■平成29(2017)年【No.259～270】
1月 お知らせ版を本号に統合し、カラーページを増加

■平成30(2018)年【No.271～282】
4月 八幡平市立病院工事開始

■令和元(2019)年【No.283～294】
4月 ハロースクール安比校開校を目標とする事業提携締結

■令和2(2020)年【No.295～】
現在に至る



写真①



写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥

皆さんの声を聞かせてください

市の歴史を記録する貴重な資料として、皆さんの興味や関心に耳を傾け、さまざまな出来事を取り上げていきます。また我がまちに誇りを持ち、ますます八幡平市を好きになるよう、まちの魅力や頑張っている市民の姿のみならず、市の課題も紙面に取り上げ、市民と行政をつなぐ広報作りに努めていきます。

小さな情報でも、どんな意見でも構いません。皆さんの声を聞かせてください。八幡平市の今を紙面に写し、これからも一緒に、八幡平市の歴史を広報はちまんたいに刻んでいきましょう。

が「広報」です。すなわち市の広報は、市民と行政がよりよい関係を築いていくことが目的です。よりよい関係とは、行政から市民へ伝える一方ではなく、双方の必要があります。市民と行政が協働で取り組む時代である現在、広報紙は市民へ情報を伝えるのみならず、情報を収集し、市政への関心を高め、一緒にまちづくりを進めるためのコミュニケーションツールとなっています。



大会直前の号外(平成28年9月)

■希望郷いわて国体そばっち通信
平成27年6月(No.221)～28年11月(No.255) 希望郷いわて国体の機運醸成を図りました。



▲各コミセンのFacebookページを紹介(No.194)

■コミュニティセンター通信
平成26年4月(No.194)～27年5月(No.219) 全14回。地域の公民館がコミセンに変わり、地域の運営に。



▲2回目に登場の大更野球スポーツ少年団。現在は平館野球スポーツ少年団と統合し、岩鷲ベースボールクラブとなりました(No.107)

■われらスポーツ少年団
平成22年6月(No.105)～25年4月(No.171) 全32回。



▲農作業時期の目安とした田山暦の木活版木※現代のスタンプ(No.117)

■八幡平いにしえの宝
平成22年5月(No.104)～25年3月(No.169) 市内の貴重な文化財や自然を紹介。



▲1回目は培養土の製造販売を行う三研ソイル株。同社相撲部も実業団の大会で上位成績を残しています(No.97)

■まちの企業探検隊
平成22年1月(No.97)～25年3月(No.169) 全38回。社員の仕事を通して会社を紹介。



▲2006ジュニアサマーキャンプNAGANOシリーズで2連勝を飾った、当時小学6年生の小林諭果選手(No.23)

■ズームアップ人
平成17年10月(No.2)～24年4月(No.148) 今活躍している人に焦点を当てた企画。

紙面を彩った
懐かしの連載コーナー



これからも皆さんと共に歩む「広報はちまんたい」をよろしくお願いします



取材や写真撮影に協力ください
 広報紙などに掲載するため、イベント・行事で写真撮影をしています。その際は腕章を着用していただきます。取材写真は次の利用目的の範囲内で使用しています。

▼市の発行物▼市ウェブサイト
 ▼市の記録資料としての保存・活用

情報提供お待ちしております
 広報はちまんたいは、住民の皆さんにとって必要な存在でありたいと思っています。そのためには、皆さんの意見が欠かせません。

▼こんな特集をしてほしい▼こんな情報が知りたい▼こんな活動をしているので、広報で取り上げてほしい▼頑張っている人がいるので紹介してほしい——など、市民に知ってほしい取り組みや人の紹介、広報はちまんたいへの意見や感想があれば、連絡をください。

皆さんからの意見を今後のより良い紙面づくりに生かしていきます。

問い合わせ先
 企画財政課広報広聴係（☎・内線1203）またはメール・kizai@city.hachimantai.lg.jp

= 読み手・作り手・伝え手から聞く =

「わたし」と「広報はちまんたい」



神奈川県からの移住者で読者
 沼田 博子 さん＝寺田＝



平成27、28年度広報担当者
 宮城 有沙 さん＝沖縄県名護市＝



八幡平市朗読奉仕 ほおずきの会
 瀬川 愛子 会長＝駅前二区＝

スクラップして市の情報残す

平成19年に神奈川県から移住してきました。学生時代に父から「八幡平に家族で住もう」と言われたことがありました。その父が亡くなって30年。ずっとその言葉が気になっていたもので、調べたり、実際に来てみたりしました。そのときに静かで星がきれいで、ここで暮らすのも面白いかなと思い、移住を決めました。

来てすぐのころは知り合いもなく、何も分からなかったのが、広報から、たくさんの情報を得ました。現在は連載が終了していますが「いにしへの宝」のコーナーが好きで、そこで紹介された市内の文化財や郷土芸能などをよく見に行きました。今では、市内のこともいろいろ覚え、県外の友人に教えています。小林陵侑選手がW杯で優勝したときには、うれしくて活躍を紹介した広報を市から取り寄せ、友人に送りました。

「キラリ輝人」や「松尾鉾山資料館だより」など特に気になるコーナーの記事は、切り取ってスクラップしています。また「暮らしの情報カレンダー」はコルクボードに貼って、いつでもすぐに見られるようにしています。

歴史や文学、音楽が好きなので、そういった特集を期待しています。担当者の内面も感じられる編集後記も楽しみにしていますので、これからも頑張ってください。

出会い、触れ合いが私の財産

平成27、28年度の2年間にわたって、広報はちまんたいNo.218～262の制作を担当しました。

数々の取材を通して、まちを形作っている取り組みや活動の背景にある人々の思い・考えに触れました。それらを交えながら、単に情報紙ではなく、市民を主役に広報はちまんたいが皆さんの情報共有の場となるよう心掛けて作っていました。

沖縄から来ていたので、風習・風土の違いから仕事に生活に戸惑うこともしばしばでしたが、広報紙制作を通じて八幡平市のことを知ることができました。取材先で多くの人と出会い、触れ合えたことが何よりの財産です。高山や雪原など過酷(笑)と思える環境での取材に加え、当時は市制施行10周年記念事業や希望郷いわて国体といった大イベントもあり、通常ではできない経験をすることができました。

制作に当たっては、失敗をすることもありましたが、市民・職員の皆さんからの叱咤激励により、より良い紙面作りを目指す！と励みました。「広報っていいですね。地元誌No.1！」という感想をいただいたときには、感極まって泣いたことを覚えています。広報紙制作には、市民の皆さんの姿・声が欠かせません。市民と共に成長する広報はちまんたいをこれからも楽しみにしています。

楽しみに待つリスナーのため

広報はちまんたい300号おめでとうございます。300号全てを音声化してきたと振り返ると感慨深いものがあります。

ほおずきの会は平成4年10月に、目の不自由な人へ広報などの情報を声にして届けること(声の広報)、朗読に親しみ楽しむことの2つを目的に旧西根町で発足しました。

私は退職後の平成9年に、町の生涯学習推進大会で、ほおずきの会の朗読を聞き、即入会しました。

旧西根町で声の広報第1号を発行したのが平成5年1月。音声版を聞きたい人の把握、レコーダーやテープの準備、郵送を無料で行うための郵政省への許可申請などさまざまな苦労を経て発行に至ったと伺いました。その後は、盲学校の先生や放送局のアナウンサーを講師に招いての講習会、音声訳の先進地視察など研修を積みながら活動してきました。

声の広報を作る上で難しいことは、写真や図表など目で引くものの説明、アクセントや間の取り方など。朗読とは異なり、感情は込めず一字一句正確に伝えることが大切です。

たくさんの苦労はありましたが、続けてこられたのは、楽しみに待つリスナーがいるから。デジタル化が進み、私たちの声の広報も不要になってくるかもしれませんが、リスナーがいる限り活動を続けていきたいと思っています。